

ISSN 2186 – 3989

入学前教育の拡充と今後の課題

篠原 史成、斎藤 英明、田部田 晋

Expansion of pre-school education and future issues.

Fuminari Shinohara, Hideaki Saito and Shin Tabeta

北 陸 大 学 紀 要
第59号(2025年9月)抜刷

入学前教育の拡充と今後の課題

篠原 史成^{*※}、斎藤 英明^{*}、田部田 晋^{*}

Expansion of pre-school education and future issues.

Fuminari Shinohara^{*※}, Hideaki Saito^{*} and Shin Tabeta^{*}

Received August 21, 2025

Accepted September 1, 2025

抄録

北陸大学経済経営学部では、入学予定者を対象とした入学前教育（スクーリング）を継続的に実施している。本稿では、2024 年度に実施したスクーリングの改革内容と、その結果から見られた学生への影響について報告する。従来のスクーリングは、座学中心でリテラシー重視の構成であり、「仲間づくり」や協働的な学習への動機づけに課題が見られた。これを踏まえ、2024 年度には①実施回数の増加、②コンピテンシー重視の活動導入、③単位認定制度の導入という三点の改革を行った。改革後のスクーリングでは、参加者間の交流が促進され、2025 年度入学者において人間関係の広がりや協働的な学習への積極性が散見された。一方で、講義中の集中力の低下や学習の深まりの不足といった課題が例年よりも顕在化した。これらの結果から、コンピテンシーとリテラシーのバランスを再考し、学生の実態に即した入学前教育のさらなる改善が必要であると考えられる。

キーワード：入学前教育、初年次教育、高大接続

* 北陸大学経済経営学部 Faculty of Economics and Management, Hokuriku University

※ 責任著者 篠原史成 Fuminari Shinohara f-shinohara@hokuriku-u.ac.jp

はじめに

北陸大学経済経営学部では、例年3月の初め頃に次年度の入学予定者を対象とした入学前教育（スクーリング）を実施している。入学前教育は、「仲間づくり」を意識した学習内容で構成され、大学入学後の基礎ゼミナールやリテラシー科目などの初年次教育との連続性を図り、主体性・多様性・協働性を意識した大学での学びを円滑に始められることを目的としている。しかし、限られた時間のなかで「仲間づくり」をすることは困難であり、初年次教育との関連も弱いことが見受けられた。そのため、グループワークなど他者との協働を余儀なくされることが多い基礎ゼミナールでは、受講生同士の関係性や個性などを考慮しながら教員、SAが頭を悩ませグループ編成を行うことも多いのが実状であり、グループワークの進捗や学びの深まりに差が出ることが課題である。また、人間関係の幅が広がりにくく、乏しいことが原因で大学生活の現状に満足できていない学生も少なくない。これらが原因となり、中途退学や休学に繋がることも多いことが現状の課題といえる。これらのことから、初年次教育との接続を強化し、大学入学時の動機づけを行うことで高校から大学への円滑な接続を促し、中途退学者数を抑制することを目指して入学前教育の改革を図った。

本稿では、これまでの入学前教育を基盤としながらも新しく拡充して実施された入学前教育について述べるとともに、その結果、2025年度入学者にどのような影響が見られたのかについて述べる。

入学前教育とその課題

2023年度の入学前教育（スクーリング）は、3月に1回のみ実施された。その内容は、「仲間づくり」を目的としたグループワークやアクティビティを行う午前の部と、「大学での学び」を体験し理解することを目的とした午後の部に分けて実施された。各内容の目的や到達目標は、Ⅰ～Ⅴに示す通りである。また、当日までに取り組む事前課題と入学後の基礎ゼミナールの成績評価対象となる事後課題（レポート課題）が提示された。

午前の部では、5～6名ほどのグループを編成し、自己紹介や共通点を見つけるアクティビティを行った。その後、「黄金体験」というコミュニケーションゲームを用いてグループ内で互いの体験・記憶を基に様々な推理をしながら楽しくコミュニケーションを行うことが主活動であった。

午後の部では、午前の部と同じようにグループを編成し、各自が取り組んだ事前課題を基にディスカッションを行いながら、協働してグループワークシートを作成することが主活動であった。

全体を振り返ると、午前の部と午後の部で活動内容の違いはあるが、特に教室内での移動があるわけでもなく、常に座学であるという点は同じである。また、一日を通して同じグループでの活動が中心であるため、休憩時間などを利用し学生自身が積極的に動かない限り、他の学生とコミュニケーションを取ることができる機会が少ない。これらのことから、全体を通してリテラシーに偏った内容になっており、「大学での学び」を体験し理解することで入学後すぐに円滑な学習ができるという点においては、それなりの効果が期待できるが、入学前教育の根底にある「仲間づくり」を意識した内容にはなっていないことが課題であるといえる。

I. 実施時期

2023 年 3 月 8 日（水）実施。

午前の部（10:00～11:20）

午後の部（12:20～14:50）

II. 参加対象者

北陸大学経済経営学部への入学予定者（入学手続き済み）。

III. 担当者

基礎ゼミナール担当教員、SA、教材作成担当者。

IV. 目的

入学後すぐに円滑な学習ができるために、仲間づくりや体験授業を通して、本学部の到達目標や教育方針を入学前から理解し、大学入学への意識を高める。

V. 到達目標

- ① 仲間づくり活動を通して、他の入学予定者に対して積極的に声をかけることができる。
- ② 体験授業を通して、「リテラシー」や「マネジメント力」を理解し、それらを発揮できる。
- ③ 自分なりの学生生活を思い描き、方針を立てることができる。少なくとも同じグループの人の名前と顔を覚えることができる。

拡充した入学前教育

2024 年度の入学前教育（スクーリング）は、3 回実施された。実施時期は、総合型選抜入学の手続きを考慮し、主に 21 世紀型スキル育成方式の合格者が多く参加できるように調整した。この入試区分で合格した学生には、学部の特性に合ったリーダー的な存在として活躍できる人材であることが期待されているため、他の入試区分の学生よりも多くスクーリングに参加してもらうことで、その役割を果たせるように入学前から動機づけするねらいがある。また、スクーリングの実施回数を闇雲に増やすのではなく、参加対象者の範囲が広がる時期を選んで実施できるように調整することで、参加した学生たちがより円滑に幅広く「仲間づくり」を行えるように意識し日程調整を行った。各内容の目的や到達目標は、I～V に示す通りである。

午前の部では、身体を動かしながらコミュニケーションを取ることを前提とし、主な活動場所を体育館に設定して実施した。また、参加者同士はもちろん、SA や教員ともコミュニケーションを取ることが必須となるアクティビティを複数用意することで、より円滑な「仲間づくり」が行われることを期待して設計された活動を実施した。加えて、21 世紀型スキル育成方式の入学者に求められる理想像として模範的な姿を参加者に見せ、体感してもらうことをねらいとして、各グループのファシリテーターを主に SA（21 世紀型スキル育成方式の入学者、ファシリテーション論の単位取得者）が務めた。さらに、第 1 回目で経験したアクティビティの進行を第 2 回、第 3 回で参加者自身がファシリテーションするという活動も取り入れられた。

午後の部では、入学種別ごとの学生に期待されていることのレクチャーをはじめ、ディスカッションやグループワーク、グループ間交流などを通して入学後の基礎ゼミナールで行われるような授業を体験することを主活動とした。これらの活動を通し、大学から自らに期待されていることや他者と協働するうえで必要な役割分担の重要性、円滑に学習活動を行うために必要なことなどを体感することで「大学での学び」の理解に繋がるように設

計し実施された。

各回、事前課題と事後課題としてレポート形式で提出する課題を提示し、学生一人一人に予習と振り返りの機会を与えることで、深い学びに繋がることを期待して各課題を作成した。また、3回のスクーリングに加え、基礎学力定着のための e ラーニングプログラムである「ホクドリ」を活用し、各スクーリングへの参加および入学前教育としての各学生の取り組みを評価することで、単位認定ができるように改革した。各課題、単位取得条件、単位取得状況については、表 1 および表 2、表 3 に示す通りである。

I. 実施時期

第 1 回: 2024 年 11 月 9 日 (土) 実施。

午前の部 (9:30~12:30)

午後の部 (13:30~15:30)

第 2 回: 2025 年 1 月 25 日 (土) 実施。

午前の部 (9:30~12:30)

午後の部 (13:30~15:30)

第 3 回: 2025 年 3 月 12 日 (水) 実施。

午前の部 (9:30~12:30)

午後の部 (13:30~15:30)

II. 参加対象者

第 1 回: 総合型選抜入学手続者 (21 世紀型スキル育成方式、スポーツ活動評価方式 (第 1 回)、課外活動評価方式、専門高校・総合学科生評価方式、商業系【簿記・情報】資格評価方式、特定地域方式)。

第 2 回: 総合型選抜入学手続者 (21 世紀型スキル育成方式、スポーツ活動評価方式 (第 1・2 回)、課外活動評価方式、専門高校・総合学科生評価方式、商業系【簿記・情報】資格評価方式、特定地域方式)。学校推薦型選抜手続者。

第 3 回: 総合型選抜入学手続者。学校推薦型選抜手続者。一般選抜手続者。特別選抜手続者。

III. 担当者

基礎ゼミナール担当教員、SA、教材作成担当者。

IV. 目的

第 1 回: 入学後の中期目標をつくる

第 2 回: グループワークで大事なことを知る

第 3 回: 入学に向けて準備する

V. 到達目標

第 1 回

- ① 入学種別ごとに期待されている人材像が分かる
- ② 協働してアクティビティをおこなうことができる
- ③ 「良い」リーダーの条件を考えることができる
- ④ 自分の理想のリーダー像を想像することができる

第 2 回

- ① 大学が期待している将来像が分かる
- ② グループワークでの役割が分かる
- ③ 協働してアクティビティをおこなうことができる
- ④ 役割分担をおこなう意味が分かる

第3回

- ① 大学が期待している将来像が分かる
- ② 協働してアクティビティをおこなうことができる
- ③ あいさつができる人を増やす
- ④ 入学前教育の単位認定について理解する

表1 各課題

課題	主な内容	提出状況
第01回事後課題	自分のリーダー像について	44
第01回代替課題	身近なリーダー、有名なリーダーについて	11
第02回事後課題	グループでの役割分担を決めたときと決めなかったときグループでの活動はどのように異なるのか、またその違いによってグループ活動の成果はどのように変化するのか	72
第02回代替課題	身近なリーダー、有名なリーダーについて	5
第03回事前課題 (課題文あり)	① これから大きく変化を遂げる未来の社会において、課題文に書かれている以外で、どのような資質や能力が必要になってくるのか ② そうした資質・能力を北陸大学にて身につけた後、社会に出て何がしたいか ③ そうした資質・能力を、4月から入学する北陸大学経済経営学部の4年間でどのように身につけたいと思うか	92
第03回事後課題	どのようにしたら自身が理想とするリーダーになることができるのか	151
第03回代替課題	リーダーになるためにどのようなことを身につける必要があるのか	6

表2 単位取得条件

スクーリング	課題	ホクドリ	単位
3回出席 (18h)	レポート×4 (4h)	ベーシック: M、J、E、L (55h) スタンダード: M、J、E (3科目の内 2科目) (16h)	2単位 (合計: 93h)
2回出席+代替課題 (18h)	レポート×4 (4h)	ベーシック: M、J、E、L (55h) スタンダード: M、J、E (3科目の内 2科目) (16h)	2単位 (合計: 93h)
1回出席 (6h)	レポート×1 (1h)	ベーシック: M、J、E、L (55h)	1単位 (合計: 62h)

*M: 数学、J: 国語、E: 英語、L: リスニング

*ホクドリの時間は、ドリル1単元に35分、実力テスト1つに40分掛かるとして算出。

*ホクドリの終了判定は、下記の①と②を満たすこととする。

- ① ドリル星5つを獲得 (10問正解: 1問正解で星半分獲得)、② 各実力テストで、100点獲得。

表 3 単位取得状況

	1 単位	2 単位	総取得者
人数	29 人	12 人	42 人
取得率 (取得人数/スクーリング参加者 (128 名))	22.6%	9.3%	31.9%

まとめ

2023 年度までの入学前教育（スクーリング）では、全体を通してリテラシーの要素が強く、座学中心の内容で構成されており、「大学での学び」を体験し理解することで、入学後すぐに円滑な学習ができるという点を重視したものであった。加えて、3 月に 1 回のみの実施であったため、「仲間づくり」の活動を行える機会が少なく、入学後に一から人間関係の構築が必要であり、講義内で行う他者との協働においても苦労する学生が散見されることが多くあった。そこで、2024 年度の入学前教育（スクーリング）では、大きく 3 点の改革を行った。

1 点目の改革は、入学前教育（スクーリング）の回数を 3 回に増やしたことである。また、ただ闇雲に回数を増やすのではなく、21 世紀型スキル育成方式の入学者を主たる参加対象に定め、入学手続きを終えた学生が増える時期に各回を実施できるように設定した。そうすることで、参加回数を重ねるごとに参加者同士のコミュニケーションに厚みを持たせ、尚且つ、新規の参加者とのコミュニケーションの機会も与えることで交流の幅を広げるといふねらいがある。

2 点目の改革は、入学前教育（スクーリング）の内容にコンピテンシーの要素を多く取り入れたことである。午前の部は、身体を使った動きのある学習活動を中心とした内容で構成し、午後の部は座学中心だが、他者との協働および他グループとの交流ができる内容で構成された。一日を通して、これまでの入学前教育（スクーリング）よりもコンピテンシーの要素を多く取り入れた活動を実施することで「仲間づくり」に重きを置き、そのなかで「大学での学び」を体感、理解することがねらいである。

3 点目の改革は、入学前教育での取り組みを評価し単位認定できるようにしたことである。これにより、入学予定者の継続的な学習への取り組みを促し、意欲的にスクーリングに参加させることがねらいである。単位認定の条件は、各回のスクーリングへの参加および事前課題、事後課題の提出、e ラーニングプログラム（ホクドリ）での学習とした（表 2）。

おわりに

2024 年度に実施した 3 回のスクーリングの事後アンケートには、学習活動に対して「楽しかった」、「面白かった」などのポジティブな感想が多くあり、1 日の満足度についても「非常に満足」と「満足」という回答が多数であった。2 回目、3 回目の回答では「新しい友達ができた」、「前回よりも仲を深めることができて良かった」など他者とのコミュニケーションに対してポジティブな回答が多かったことが印象的である。また、2025 年度入学者の大学内での様子から、例年に比べ人間関係の幅が広いように感じられる。特に、例年であれば同じ部活動の学生や同じ高校出身の学生でグループができていることが多く、そこから他のグループとの関係性が広がることは少ない、または時間がかかるという印象が

強い。しかし、2025年度の入学者は、他の部活動の学生や他の高校出身の学生ともしっかりと人間関係が早い段階できていることが散見され、基礎ゼミナールなど、他者とのコミュニケーションが必須である活動においても、意欲的に取り組むことができる学生の多いことが印象的である。これらのことから、拡充された入学前教育は、入学予定者の「仲間づくり」活動において、多少なりとも良い効果があったのではないかと考えられる。

一方で、例年よりも他者とのコミュニケーションに意欲的であり、人間関係の幅が広いことは良いが、それに伴ってか講義中に落ち着きのない様子が散見される。また、グループワークなどでの学習活動に深みがないということも教員間で話題となることが多い。これらは、拡充した入学前教育（スクーリング）の内容がコンピテンシーの要素を強く取り入れ過ぎたことにより、コンピテンシーとリテラシーのバランスが悪くなってしまったことが一要因かもしれない。これらを踏まえ、今後は更なる考察を加えた入学前教育の改革が必要であり、より学生の実態に寄り添った内容で設計し、実施することができるようにしていくことが課題である。

参考文献

- 篠原史成，斎藤英明，田部田晋. (2024). 北陸大学経済経営学部における学生の現状に関する一考察. 北陸大学紀要. 58. 119-126.
- 山本以和子，花堂奈緒子，林寛子，當山明華，陣内未来. (2024). 高大接続改革に係る入学前教育の実施状況と課題. 大学入試研究ジャーナル. 34. 182-189.
- 溝口侑，斉藤準，木原宏子，松井晋作. (2022). 入学前教育の今後の課題と展開. 大学教育学会誌. 44(2). 155-160.